

学校教育委員会は、地球科学の研究成果を教育機関・教育関係者を通じて社会に還元することを目的として、平成7年（1995年）兵庫県南部地震の発生を機に設立されました。現在の委員は、高校教員3名、中学校教員1名、小学校教員1名、大学教員4名、研究開発機関の研究員1名の計10名です。

本委員会の主な活動は、教育関係者相互、および研究者と教育関係者間の交流の場となるネットワークを構築したり、教育関係者への情報・データを提供したりすることです。その一環として、1996年以降、教員や教員志望の大学生を対象とした「教員サマースクール」を行ってきました（2020～2021年はCOVID-19等のため、オンラインでの「教員ウィンターミーティング」を実施）。2009～2021年には「教員免許状更新講習」を、学会員の協力を得て毎年全国の約10か所で開催しました。また、秋季大会に合わせた「地震の教室」（教材等を紹介する教員向け教室、地震計を手作りする親子向け教室）は、今回が8回目の開催です。昨年は、東京国際消防防災展2023にも参加し、実験や教材を紹介しました。

教員サマースクール

「平成7年（1995年）兵庫県南部地震による災害のその後と
今後の大地震への備え in Osaka」（2024年8月21日～23日）

今年度の教員サマースクールは、大阪市内および震災遺構や防災に関する施設を訪ねました。小・中・高の教員の方々など21名が参加しました。

2日間のスクールの内容は、津波・高潮ステーション、尻無川水門、甚兵衛渡船、安政大津波の碑（大地震両川口津浪記）の訪問、上町断層での野外観察、矢倉緑地公園（震災遺構）、およびあべのハルカス（バックヤード）の見学等、多彩なものでした。3日目はオプションツアーとして野島断層保存館や人と防災未来センター等を見学しました。



矢倉緑地公園
兵庫県南部地震により壊れた堤防の復旧工事銘板等の確認、および沈降したままとなっている護岸の様子などを観察

教員ウィンターミーティング

サマースクールに替えてオンラインで開催

- 2020年「コロナ禍での地震の教材を考える」
- 2021年「地震学の最新の話と社会との関わり」

最近の開催内容

- 2019年「跡津川断層と神岡鉱山ー地球の息吹きを探る」
- 2022年「妖怪の足音ききくらべー地震計をもって境港と溶岩の島をあるくー」
- 2023年「伊豆衝突帯ー丹那断層や地震観測点を巡るー」

東京国際消防防災展 2023

（2023年6月15日～18日 東京ビッグサイト）

「地震の不思議ーミニ実験で調べようー」と題したブースを用意し、建物の構造の違いによる揺れ方を比較できる「8連紙ぶるる」や、液状化現象を再現する実験を演示しました。また、来場者が付箋に質問を書いて貼れる「地震の研究者に聞いてみよう！」のコーナーも設けました。さらに、舞台での特別講演として、「地震波を出す（震源域）・伝わる（経路）・受け取る（地盤や建物）」をテーマに、各種実験を行いました。子どもから大人まで、多くの来場者が熱心に参加されました。



講演で断層のモデル実験を紹介

ブースでの教材の紹介と演示



地震の教室

2023年11月3日 はまぎん こども宇宙科学館
2024年10月20日 新潟県立自然科学館

毎年、地震の教室（親子向け）および地震の教室（教員・一般向け）を開催しています。親子向け教室は地震計などを手作りする教室で、関西地震観測研究協議会広報分科会の協力を得て実施しています。教員・一般向けでは小・中・高校教員を主な対象に地震に関する教材等を紹介します。



2023年の会場のようす



2023年 教員サマースクール



2019年 教員免許状更新講習